

七友会 だより

定年退職を迎えて

国際文化課程教授 岡田 仁

みんなそう思うらしいが、定年退職を迎える心境は複雑である。一休禅師の狂歌ではないが、「めでたくもあり、めでたくもなし」というところか。ただ、昨今は大学も大変厳しい状況に置かれているので、「ここで辞められるのはめでたいことだ、もっと喜べ」と若い同僚からは言われている。確かに、定年まで勤められたことは有り難いことだと思っている。しかし、未練がないわけではない。それは職に対する未練ではなく、せっかくの職を全う出来なかったのではないかという不安や後悔に近いものである。

これは全学共通教育で英語を担当していたことにも関係しているかもしれない。英語教師はかわいそうだ。国民の多くが英語ぐらいはものにしたいと望んでいながら、ほとんどの人が挫折感を味わっている。責任者は出てこいと言われれば、英語教師は真っ先に引っ張り出される。我々にも言い分はあるが、勉強の醍醐味である、出来なかったことが出来るようになる、あるいは、分からなかったことが分かるようになるという喜びを実感してもらえなかったとすれば、教員としての努力に何か欠けていたのではないかと反省せざるを得ない。自分の授業はどうだったのだろうかと自問すると、ああすれば良かった、こうすれば良かったという思いが残る。しかし、この期に及んでジタバタするわけにもいかず、皆さんに少しでも役立ってくれればと祈るばかりである。

英語の他に専門教育では主にイギリス文学を担当した。こちらの方はだいたい自分の好きなようにやらせてもらった。受講した皆さんには迷惑だったかもしれないが、私には楽しかった。そして、実は文学の講義や演習も役に立って欲しいと祈る気持ちに変わりはない。職場や家庭で日々私たちが対応しなくてはならない現実と密接に結びついていながら、実は全くの虚構である別世界へと通じる道を知っていれば、それは人生を豊かにしてくれる貴重な財産と言えるのではないだろうか。もっとも、私の授業とはあまり関係がないかもしれない。

今更ながら指折り数えると岩手大学には36年勤めたことになる。盛岡に赴任したてに過ごした家が懐かしくなってしばらく前に訪れてみた。あたりの様子はすっかり変わってしまい、借りていた家はなく、その跡地の見当もつかなかった。大きな農家の敷地の端に6棟ばかりあった貸家の1軒だったことを思い出しながら、ようやく自分が今立っている広い道がその跡地なのだ分かった。大学のキャンパスも変化している。私の最初の研究室は今は教室になっている。しかし、当時のキャンパスの状況を具体的には思い出せない。今は私が場所を忘れているが、やがて場所の方が私を忘れるだろう、などと感傷に浸れるのも定年退職の楽しみの一つとしておく。

感傷ついでに言うと、私の出身大学（東京教育大学）は廃校になり、私が岩手大学で最初に所属した教養部はもうない。どちらも発展的解消ということなので嘆く理由は全くないが、しかし、学生・教職員がそこで共有した時間を今に繋ぎ留めるところはない。伝統という言葉をふと思う。その意味でも人文社会科学部にはいつまでも存在し続けて欲しいと心から願う。卒業生と共に退職教職員にとってもここで過ごした時間の記憶は掛け替えのないものになるはずだからである。

目次

定年退職を迎えて ……………1

学部創設30周年記念
行事報告 ……………2

修士論文公開発表会開催 ……2

シンボルツリー植樹 ……………2

就職ガイダンス開催 ……………2

平成19年度会計予算書 ……3

平成20年度七友会評
議会開催のお知らせ ……4

住所変更をお知らせくだ
さい ……4

定年退官される先生方 ……4

訃報 ……………4

「純米酒岩手大学」の話 ……4

会則訂正について ……………4



Iwate
University
岩手大学

— 学部創設30周年記念行事報告 —

人文社会科学部創設30周年記念講演会は、10月19日（金）、学部5号館51大講義室において開かれました。前東京大学総長の佐々木毅学習院大学法学部教授が、「大学と社会との間～人文社会科学の可能性について～」と題して講演し、教職員や学生、卒業生など120名ほどが耳を傾けました。

この中で佐々木教授は、大学での人材育成を通して、社会における「知」の在り方、とりわけ、常に現実と直面している人文社会科学の存在意義を高めることが重要であり、法人化によって、ある意味では行政から独立し社会に根をおろした大学本来の姿になろうとする今こそ、地域との関係をより深めていくことが重要だと話しました。

講演会後の祝賀会には、同窓生も1期生をはじめ27期生まで10名ほどが出席しました。中には直前になって、偶然開催を知り駆け付けた方もおり、先生方も混じえて懐かしい大学生活の話に花を咲かせました。

なお、学部創設30周年記念誌「30年の歩みとこれからの人社」は、概ね住所の確認できている会員の分として3,000部用意していただきましたが、少々足りなかったかもしれません。その時は、大学を懐かしむ年代から順に送りたいと思いますので御了承下さい。同窓会の30周年記念行事の際には、こうした資料も用意しておきたいと思います。

修士論文公开发表会開催

平成20年2月20日（水）、人文社会科学部G 1大講義室において以下の方々の発表会が開かれました。年々、資料も充実し、短時間の中でわかりやすく説明する工夫がされていて、楽しい時間をすごしました。興味のある方は、来年の発表会にぜひおいで下さい。発表者とテーマは次のとおりでした。

[人間科学専攻]

- 石垣まりこ 大学生の精神的健康と自己愛との関連
— 質問紙調査と事例研究をとおして—
- 小川 香織 絵本の読み聞かせの心理療法的効果の検討
— 小児科の診療待ち時間における読書療法的アプローチ—
- 角田しのぶ ソーシャル・サポートによる非行抑止効果の検討
— 事例と統計的手法を用いて—
- 菊地 文子 大学生の心身の健康と空想との関連について
— QOSLと空想内容を中心に—
- 小田桐明香 支援的関わりによる別室登校生徒の成長に関する一考察
— 対人恐怖的心性に着目して—
- 新田 静枝 制御焦点および自己の変異性と精神的健康との関連について
- 林 あずさ ストレス・コーピングの柔軟性と精神的健康の関連について

[国際文化専攻]

- 杉浦 幸恵 安部公房『箱男』における語りの重層性
- シャルル マルタ デウイスシロ 村上春樹の初期作品について
— 背景も視野に入れながら—
- エフセエフ エカテリーナ ロシアから見た宮沢賢治童話の動物
- 下家 美里 「銀河鉄道の夜」の「父」と子
- 山崎 俊 明治・大正時代の服飾についての一考察 — 過渡期の共通点—
- 李 玉燕 近代知識人の天皇観 — 福沢諭吉と植木枝盛を中心に—
- 佐藤 貴子 イギリス封建王政と聖職者身分
— 叙任権問題と聖職者課税問題を中心として—
- 岡崎まりえ 統一ドイツと『心の壁』 — そのメカニズムの考察—

北川あず美 An Experimental Study of Language Learning Strategies : Particular Focus on the Patterns of Strategy Use by Japanese University Learners of English

[社会・環境システム専攻]

- 殷 佩瑜 中山間地域農業振興における畜産物産直の意義と課題
— 岩手県久慈市山形町と「大地を守る会」との日本短角牛産直を事例として—
- 大川 希恵 南アフリカの対アフリカ直接投資
- 張 雅青 中国の通貨制度の変遷と人民元の切り上げについて

[人間科学専攻]

藤澤 康子 精神障害者の自助活動に関する調査研究

[社会・環境システム専攻]

- 熊谷 智義 高齢者による環境活動と地域形成
— 岩手県内老人クラブ活動の事例研究—

30周年を記念し、シンボルツリー植樹

学部創設30周年記念植樹は、平成20年3月21日、卒業式終了後、予定地の学部一号館近くで行なわれます。植樹は、学部教育後援会と同窓会からの贈呈として行なわれるもので、樹種は専門家の意見をききながら、シンボリックなものになる予定です。21日には、卒業式と学部祝賀会との間に、簡単なセレモニーも予定されており、この樹が、卒業や入学など様々な場面で、学部のシンボリック的存在となることを願っています。会員の皆さんも、大学へおいでの際には、ぜひ御覧いただきたいと思います。

～就職ガイダンス開催～

今年度も、12月11日（火）学部（教育後援会）との共催で、「先輩の就職活動体験から学ぶ」をテーマに懇談会形式で3年生対象のガイダンスを開催しました。

まず卒業生として、室岡梨香さん（株ワイズマン）、佐藤敦さん（岩手大学生協）、石川明穂さん（NPO法人環境パートナーシップいわて）の3名の方が、就職活動の体験談や現在の仕事内容、感想などを話しました。続いて、古澤恵理さん、千田英恵さんら6名の現4年生の内定者が、実際の就職活動の注意点や企業を選んだコツ、自己アピールの仕方などホットな内容を話してくれました。就職状況が好転し、学内での企業説明会なども開催されるためか、3年生の参加は昨年より少なく、全体でも60名ほどでした。しかし、参加した3年生は、もっと具体的なことを聞き出そうと、真剣な顔で4年生を囲んで様々な質問をしていました。

新卒者への就職状況が良くなっているとはいえ、地元企業の採用活動が遅いため、地元希望者にとってはむずかしい状況が続く、県外への就職が多くなっているのが現状のようです。

臨時評議員会で補正予算を決定

平成19年9月22日（土）に開催された臨時評議員会において、今年度の予算の補正が決まりました。これは、学部創設30周年記念事業における同窓会への負担金の要請があり、また全学同窓会（仮）設立への動きに合わせ、平成19年度分の負担金を予算化することを目的に行なわれました。学部創設30周年記念事業への補助は、特別会計の「学部創設30周年記念積立」より一般会計へ繰入れることで予算化しました。全学同窓会（仮）負担金については、話し合いの進展から年度内にも設立される可能性が高まったため予算化することになりました。補正後の予算は以下のとおりです。

また、会活動の活性化策や評議員の選出方法などについても議論されましたが、明確な方策は決まらず継続して検討することになりました。

平成19年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計予算書

(平成19年9月22日補正)

1. 一般会計

<歳入>

(単位 円)

科 目	補正予算額	平成19年度当初予算額	備 考
前年度繰越金	2,499,338	2,499,338	普通預金(1,598,168円)、普通定期預金(901,170円)
会費	4,700,000	4,700,000	20,000円×235名
特別会計より繰入	1,000,000	0	
雑収入	1,276	1,276	利息
計	8,200,614	7,200,614	

<歳出>

科 目	補正予算額	平成19年度当初予算額	備 考
1. 事業費	5,150,000	3,650,000	
1) 会報発行関係	1,500,000	1,500,000	会報発行
ア. 会報等印刷費	800,000	800,000	
イ. 会報等郵送費	700,000	700,000	
2) 会員活動援助費	400,000	400,000	親睦会・交流会等
3) 卒業記念品贈呈費	200,000	200,000	27期、28期分積立
4) 支部援助費	800,000	800,000	関東支部(ホームページ維持費、盛岡ふるさと会費)、仙台支部
5) 文化事業補助	200,000	200,000	学部交流関係他
6) 寄附金	500,000	500,000	人文社会科学部へ寄附
7) 学部創設30周年記念事業負担金	1,000,000	0	
8) 全学同窓会(仮)負担金	500,000	0	
9) 諸費	50,000	50,000	慶弔費
2. 会議費	600,000	600,000	
1) 評議員会会議費	500,000	500,000	評議員会諸経費
2) 諸会議費	100,000	100,000	
3. 事務費	600,000	600,000	事務用品、データ管理費、ホームページ協賛金等
4. 特別積立金	700,000	700,000	
5. 雑費	100,000	100,000	事務謝金
6. 学部設立30周年記念積立	0	400,000	
7. 同窓会設立30周年記念積立	400,000	400,000	
8. 返還金	60,000	60,000	大学院生3名に対する返還金
9. 予備費	590,614	690,614	
計	8,200,614	7,200,614	

2. 特別会計

<歳入>

(単位 円)

科 目	補正予算額	平成19年度当初予算額	備 考
1. 前年度末繰越金	44,290,156	44,290,156	
2. 新規積立金	1,300,000	1,700,000	卒業記念(27、28期分)200,000円、特別積立700,000円、同窓会30年400,000円
3. 利息	4,391	4,391	
計	45,594,547	45,994,547	

<歳出>

科 目	補正予算額	平成19年度当初予算額	備 考
1. 一般会計へ繰出	1,000,000	0	
2. 積立金	44,594,547	45,994,547	
1) 特別積立金	27,510,623	27,510,623	(26,807,206円+700,000円+3,417円)
2) 卒業記念積立金	3,043,997	3,043,997	27期分、28期分卒業記念品贈呈費
3) 学部設立30周年記念積立	6,732,687	8,132,687	
4) 同窓会設立30周年記念積立	7,307,240	7,307,240	
計	45,594,547	45,994,547	

平成20年度 七友会評議員会開催のお知らせ

平成20年度の七友会評議員会は、6月14日（土）、盛岡にて開催を予定しています。会場はまだ未定ですが、例年、午後1時から午後5時頃までを予定しています。また、評議員会終了後、親睦会も計画されておりますので、多くの方の参加を期待しています。なお、評議員会では、会出席者が少ないところから、評議員以外の方でも同窓会活動に関心のある方の参加を認めておりますし、出席のための旅費は同窓会で負担しています。同窓会活動の活性化のためにも多くの方の参加をお願いします。ただ、準備の都合もありますので、事前に事務局まで御連絡をお願いします。

開催要項 日 時：平成20年6月14日（土）13時～17時（予定） 会 場：未定（盛岡市内を予定）
議 題：1. 平成19年度事業報告 2. 平成19年度会計決算報告 3. 平成20年度事業計画案
4. 平成20年度会計予算案 5. 役員改選 6. その他

卒業生の皆さん、会員の皆さん 住所(変更)をお知らせ下さい

卒業生の皆さん、就職等で住所が変わり、落ち着いたましたら同窓会にお知らせ下さい。連絡先住所は、本人の現住所がベストですが実家等連絡のとれるところでもかまいません。会報や行事の案内等を送ります。

ふりがな 氏 名 _____ (男・女) 住 所 〒 _____ TEL _____	卒業 期 (年 月卒) ※封筒にある整理No. : _____
---	-------------------------------------

定年退官される先生方

平成20年3月末をもって定年退官されるのは次の4名の方々です。同窓生の皆さんもいろいろ憶い出があると思いますので、先生方には、たいへんお忙しい中、会報に寄稿をお願いしております。今号には、岡田仁先生の文を掲載しましたが、次号には、横井修一先生、井上隆義先生を予定しています。

なお、先生方にはささやかではありますが、同窓会より記念品を贈りました。永い間、ありがとうございました。

- ・横井 修一教授 (人間科学課程)
- ・岡田 仁教授 (国際文化課程)
- ・笹尾 道子教授 (国際文化課程)
- ・井上 隆義教授 (環境科学課程)

訃 報

すでに御存知の方も多いと思いますが、佐藤道郎名誉教授（アジア思想史）が、平成19年10月29日、心不全のため亡くなりました。78才。10月19日に開かれた学部創設30周年記念講演会、祝賀会にも出席されておられましたが、病を押してこられたのか、以前に比べると、だいぶやつれておられました。その時の姿が最後となってしまいました。御冥福をお祈りいたします。

なお、同窓会として火葬に会長が参列するとともに、弔電を打ちました。

— 会則訂正について —

会報第25号に掲載した七友会会則の中に誤記がありましたので、お知らせします。

- 会 則
- (誤) 第16条 評議員会は、出席者をもって成立し議長は出席者の～
 - (正) 第16条 評議員会は、出席者をもって成立し議事は出席者の～

「純米酒 岩手大学」の話

平成20年2月16日（土）、岩手大学のオリジナル清酒「純米酒 岩手大学」の御披露目会がおこなわれました。このお酒は、農業の大切さを学生たちに伝えたいと農学部の星野次汪教授が発案し、紫波町の月の輪酒造店、岩手大学生協の協力で昨年から実現しました。岩手大学滝沢農場で収穫された食用米「ひとめぼれ」を精米歩合80%に高め、さらにアルコール分は18度と、度数調整をしないままで搾った風味豊かな、飲みやすいお酒です。当日は試飲のほかに、平山学長の書による3つのデザインの中から投票でラベルを決定しました。今年は720ml瓶で3,000本用意され、岩手大学生協売店で限定販売されています。1本1,300円です。

また、7月頃には、星野次汪教授によって育種された100%モチ性のヒエの品種「長十郎もち」と滝沢農場産のもち米「たつこもち」を材料につくられた新しい酒「もちヒエ酒（仮称）」も販売予定です。ヒエの配合割合による3種類のお酒を試飲しましたが、ヒエ独特の香りと甘さが特徴となっています。私は4割のお酒が好みでしたが、どの割合になるかは未定です。こちらも楽しみに!!

岩手大学人文社会科学部同窓会

(郵便宛先) 020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
(事務局) Tel (留守録) & Fax : 047-336-3945
E-mail : office@shichiyukai.net
info@jinsya.com

ホームページもご覧ください!

http://www.shichiyukai.net/
http://www.jinsya.com/ (関東支部)